

モロッコ政治月報(11月)

2015年12月10日

在モロッコ大使館

11月のモロッコの政治情勢等を、当地報道を中心に以下のとおりまとめました。要人往来については末尾の一覧表をご覧ください。

なお、当政治月報は当月中にメディアで多く取り上げられた話題をその都度記録したもので、これらニュースについての当館及び日本政府の立場を何ら反映するものではありません。

【主な出来事】

- ◎ モハメッド6世国王の「緑の行進記念日」演説（6日）
- ◎ パリ連続テロ事件に対するモロッコの反応（13日以降）
- ◎ I S I Lを支持するテロ細胞の摘発（14日、16日及び26日）
- ◎ モハメッド6世国王のCOP21演説（王弟ムーレイ・ラシッド王子による代読）（30日）

<内政・政局>

1 パリ連続テロ事件に対するモロッコ宗教界の反応

14日、ウレマ上級評議会は、ジハードの概念を改め、I S I Lのようなジハーディスト・グループによる暴力とテロ行為を拒否するファトワー（宗教的見解）を発出した。永代財産・イスラム宗教省は同様に、当国の説教師及び宗教指導者に対し、宗教的正当性及び市民を啓蒙するための条理が価値を持つような動員や訴えを行うよう勧告した。同省はまた、パリの連続テロ行為をイスラムに属するかのようにならんと自称した卑劣な行為であると断罪するとともに、イスラムの栄光のために行ったと称している本件首謀者を非難した。さらに同省は、モロッコの宗教界に対し、すべての暴力及び強制はイスラム教及びその説教から導き出されないことを市民に示し、啓蒙するよう求めた。

2 ナドール県におけるI S I L支持者の逮捕

14日付報道によれば、同日、中央司法捜査局（BCIJ）がナドール県ラロウィにおいてI S I Lを支持する男性1名を逮捕した。同逮捕者はI S I Lに加わることを計画、具体的にはモロッコ国内、もしくは欧州域のキリスト教教会において爆弾テロを企てていた。

3 ベニ・メラル市におけるI S I L支持者4名からなるテロ細胞の解体

16日付報道によれば、同日、BCIJがベニ・メラル市においてI S I Lを支持す

る4名の過激主義者からなるテロ細胞を逮捕した。同テロ細胞は、モロッコ国内の治安と安全に重大な影響を及ぼすことを目的に、爆発物を使用したテロ行為を企てていたとされ、本細胞首謀者がISILのモロッコ人戦闘員と緊密に連携していたことが判明しており、ISILから本件テロ計画実施に必要な後方支援を得ようとしていたとみられる。

4 モロッコに対するISILの脅威の増加

25日付報道は、パリ連続テロ事件容疑者逮捕にかかるモロッコ当局からの情報提供が明るみに出たことを踏まえ、モロッコにおけるISILの脅威の増加について報じた。具体的には、仏・モロッコ情報機関の協力の結果に対する報復として、ISILは、「兵士を全滅させ、王宮を爆破し、経済を破壊する」よう呼びかけた。この呼びかけは、多くのISIL戦闘員が利用しているツイッターなどソーシャルメディアを通じて行われ、これらの投稿はISILシンパにモロッコを標的とするよう促すとともに、モロッコが「標的リストのトップ」に上がったと主張している。

5 3名からなるテロ細胞の解体

26日付報道によれば、同日、BCIJがISILを支持する3名(女性1名を含む)からなるテロ細胞を解体した。同細胞はフェズ、カサブランカ及びウラッド・ティマ(当国南部アガデル近郊)を活動拠点としており、ISILの基本理念である既存の価値体系の破壊を推し進めるために、モロッコ国内でのテロ行為を企てていた。逮捕されたISIL支持者の女性は、リビアのジハーディスト・グループと関連があったと見られており、同人は自爆ベルトを使用し、当国中枢への攻撃を画策していた。また、同テロ細胞はISILへの忠誠を示しており、当国の治安当局への遠隔操縦爆弾による攻撃、観光客を人質として、収監されているジハーディストの釈放乃至身代金の要求を企てていたとみられる。

<外交・国際関係>

6 モハメッド6世国王演説(第40回「緑の行進記念日」)

(1)6日、モハメッド6世国王は西サハラ地域主要都市ラユーンにおいて第40回「緑の行進記念日」の演説を行った。モハメッド6世国王は同演説で、西サハラ地域におけるレント経済からの決別を宣言し、同地域がサブサハラ・アフリカへの入り口として発展するための開発計画を発表した。

(2)また、同国王は、地方分権化の更なる強化を宣言した上で、モロッコのサハラ住民への取組とティンドウフ・キャンプの生活条件を比較し、アルジェリアを厳しく非難した。更に、西サハラ地域への自治権拡大提案はモロッコがなし得る最大限のものであり、新たな妥協・譲歩を行う余地はないと明言した。

7 李肇星中国元外交部長とブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣の会談

(1) 13日付モロッコ外務・協力省HPによれば、同日、ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣は、李肇星中国公共外交協会会長（元外交部長）が率いる中国代表団と会談した。同会談において、両国代表は、8世紀以上になる質の高い2国間関係の歴史を称賛し、2国間協力を推進・拡大する両国間の決意を強調した。この点、ブーアイダ大臣は、数多くの中国のプロジェクトが、アフリカ大陸のみならずアラブ社会との関係で重要な役割を担っている旨述べた。

(2) 政策面に関しては、ブーアイダ大臣は、とりわけモロッコの領土の一体性に関する中国の支持に表明される、国際的な紛争に関する両国間の見解の収れんに改めて触れた。同大臣はまた、モハメッド6世国王が南部地域を訪問した際に発表した様々な巨大プロジェクトを引用した上で、26日から27日までマラケシュで開催予定の中国・アフリカサミットの前夜に、中国の代表及び経済界が南部地域を訪問し、モロッコ・中国間の協力関係を強固にしつつ、モロッコ・中国・アフリカの三角協力を強化する可能性のあるプロジェクトを視察するよう呼びかけた。

8 モハメッド6世国王によるパリ連続テロ事件に対する弔意の発出

(1) 14日付報道によれば、モハメッド6世国王はオランド仏大統領宛に弔意のメッセージを発出、その中で同国王は激しい感情と深い悲しみをもって、パリの様々な場で起こったおぞましいテロ攻撃のニュースに接した旨述べるとともに、仏国民とともに、同大統領及びこの犯罪行為の無垢の被害者の家族に対し深甚なる弔意を示す旨述べた。また、同国王は同メッセージにおいて、モロッコ国民を代表し、かつ個人的に、このような卑劣なテロ行為を強く非難し、この試練においてモロッコの連帯と支援を約束した。

(2) 同国王は同様にヴァルス仏首相宛に弔意のメッセージを発出し、この身の毛がよだつテロ行為を強く非難、仏治安当局がこのおぞましい犯罪行為の首謀者を逮捕し、仏の気高い価値を守るために仏国民の動員と決意をもって、仏がこの恐ろしい試練に対処することを確信している旨述べた。

9 モハメッド6世国王とオランド仏大統領の会談

報道によれば、20日、仏に私的滞在中のモハメッド6世国王は、パリ連続テロ事件を踏まえオランド仏大統領と会談し、両元首は、共にテロや過激主義に対抗し、地域かつ国際的な危機を解決に導くことを確認した。オランド大統領は、モハメッド6世国王に対し、13日の連続テロ事件後にモロッコが提供した効果的な支援に謝意を表した。両元首はまた、パリで開催予定のCOP21及び明年モロッコで開催予定のCOP22の成功と地球の保全のためにすべての力を結集することを再確認した。

10 モハメッド6世国王演説（COP21）

（1）30日、パリ近郊で開催中の国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）において、王弟ムーレイ・ラシッド王子がモハメッド6世国王の演説を代読した。同国王は演説の中で、今次会合の重要性を強調した上で、気候変動の脅威は国や地域単位ではなく地球全体の問題であることから、将来世代のための責任を果たす必要がある旨語った。

（2）同国王はまた、気候変動問題にかかるモロッコの取組に触れ、その中で、干ばつに対応するために140の巨大ダムを建設したことや、エコシステムを破壊しない流域管理を導入したことを紹介した。さらに、モロッコが国家環境憲章、緑のモロッコ計画や緑の投資計画を策定したほか、遺伝子組換え生物（OGM）を国内で禁止、プラスチックごみにかかる法案を制定中であると紹介した上で、これまで2020年までにエネルギー需要の42%を再生可能エネルギーでまかなう目標を有していたが、これに加えて、2030年までにこの比率を52%までに高めるという野心的な計画を発表した。

（3）これらの積極的な気候変動にかかる国内政策を踏まえ、明年のCOP22をマラケシュで開催したい意向を再度表明した。

<モロッコ要人の外国訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
11月9日	サウジアラビア	ベンキラン首相, ブーアイダ特命大臣	第4回アラブ南米サミット出席
11月10日	フランス	ムーレイ・ラシッド王子	ラ・セル＝サン＝クルー協定(1955年, モハメッド5世国王の亡命を終了させた仏・モロッコ間の協定)締結60周年記念祝典出席
11月11日-	フランス	モハメッド6世国王	私的滞在, オランダ仏大統領との会談(20日), COP21出席(30日-)
11月11日	マルタ	メズアール外務・協力大臣	移民問題に関するEU・アフリカ首脳会合
11月16-17日	フランス	アマラ・エネルギー・鉱山・水利・環境大臣	IEA閣僚理事会
11月26日	スペイン	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣	地中海連合非公式大臣級会合
11月29日	フランス	メズアール外務・協力大臣	ヴィエイラ・ブラジル外務大臣, ロイサガ・パラグアイ外務大臣との会談
11月30日-	フランス	ムーレイ・ラシッド王子, メズアール外務・協力大臣, アマラ・エネルギー・鉱山・水利・環境大臣, エル・ヒティ・エネルギー・鉱山・水利・環境大臣付環境担当特命大臣	COP21出席
11月30日	オランダ	ラミッド法務大臣	デ・ストウール・オランダ治安・法務大臣との会談

<外国要人のモロッコ訪問>

日付	国	名・肩書き等	目的
11月4日	欧州	スマ・チャクラバルティ 欧州復興開発銀行総裁	ベンキラン首相との会談
11月10-13日	英国	トビアス・エルウッド外務政務次官（中東担当） 兼下院議員	ドライス内務大臣付特命大臣との会談
11月11日	ルワンダ	カガメ大統領	第8回 MEDays フォーラム（タンジェ）出席
11月12日	ルーマニア	ブルラク外務副大臣（地球規模問題担当）	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣と会談
11月13日	中国	李肇星元外交部長（中国公共外交協会会長）	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣と会談
11月16日	米国	デボラ・リー・ジェイムズ空軍長官	ブシャイブ・アルーブ王国軍総監兼南部方面司令官
11月17日	米国	ダフナ・ランド国務省次官補代理（民主主義・人権担当）	ドライス内務大臣付特命大臣，ハルフィ・コミュニケーション大臣兼報道官，ブリタ外務・協力省次官と会談
11月24日	コンゴ(民)	トリフォン・キンキエイ・ムルンバ国会担当大臣	エル・オマリ国会・市民関係担当大臣との会談
11月24日	パレスチナ自治政府	リヤード・アル・マリキ外相	メズアール外相，ブーアイダ担当大臣との会談
11月25日	国連	ロス・サハラ問題担当特使	メズアール外相，ヒレイ国連常駐代表との会談
11月29日	ニジェール	オマール・アミドゥ・チアニ鉱業・産業開発大臣	二国間エネルギー・鉱物枠組み協定署名，アマラ・エネルギー・鉱山・水利・環境大臣との会談

(了)